

2022年3月期 第2四半期決算説明会

扶桑化学工業株式会社

2021年11月5日
東証第一部（4368）



I. 2022年3月期第2四半期 決算概要

II. 事業の概況

■ ライフサイエンス事業

■ 電子材料および機能性化学品事業

III. 2022年3月期 業績予想

IV. Q&A

代表取締役社長
執行役員 管理本部長

杉田 真一
伊藤 裕之

I . 2022年3月期第2四半期 決算概要

2022年3月期第2四半期 決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			2021年5月当初計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	251.6	203.4	+48.2	+23.7%	230.0	+21.6	+9.4%
営業利益	64.2	46.2	+17.9	+38.8%	50.5	+13.7	+27.2%
経常利益	64.8	45.0	+19.7	+43.9%	50.5	+14.3	+28.4%
当期純利益	44.8	30.8	+14.0	+45.4%	34.5	+10.3	+30.1%
償却前営業利益	85.5	71.1	+14.3	+20.1%	72.0	+13.5	+18.8%
1株当たり 当期純利益	126.5 円	86.9 円	+39.6 円	+45.6%	97.1 円	+29.4 円	+30.3%

売上高・すべての利益で半期過去最高を更新

2022年3月期第2四半期 決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			2021年8月修正計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	251.6	203.4	+48.2	+23.7%	251.0	+0.6	+0.3%
営業利益	64.2	46.2	+17.9	+38.8%	63.5	+0.7	+1.2%
経常利益	64.8	45.0	+19.7	+43.9%	63.8	+1.0	+1.6%
当期純利益	44.8	30.8	+14.0	+45.4%	44.0	+0.8	+2.0%
償却前営業利益	85.5	71.1	+14.3	+20.1%	84.8	+0.7	+0.8%
1株当たり 当期純利益	126.5 円	86.9 円	+39.6 円	+45.6%	123.9 円	+2.6 円	+2.2%

セグメント別売上高・営業利益【前期比】

(単位：億円)		当期実績	前年同期比		
			前期実績	増減額	増減率
ライフサイエンス事業	売上高	144.4	113.2	+31.1	+27.5%
	営業利益	20.7	17.1	+3.6	+21.1%
電子材料および 機能性化学品事業	売上高	107.2	90.1	+17.0	+19.0%
	営業利益	50.4	35.7	+14.6	+41.1%
(調整額)		△6.9	△6.5	△0.3	+5.3%
営業利益 (全社)		64.2	46.2	+17.9	+38.8%

2022年3月期 四半期別の業績



(単位：億円)	'22/3期 1Q	前年同期比		'22/3期 2Q	前年同期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	128.3	+26.2	+25.8%	123.3	+21.9	+21.7%
営業利益	33.7	+10.2	+43.7%	30.5	+7.6	+33.7%
経常利益	33.7	+10.2	+43.5%	31.0	+9.5	+44.3%
四半期純利益	22.3	+7.1	+46.6%	22.5	+6.6	+41.8%
償却前営業利益	44.1	+8.1	+22.8%	41.3	+6.1	+17.4%
1株当たり 四半期純利益	63.0 円	+20.0 円		63.5 円	+18.8 円	

2022年3月期 四半期別の業績

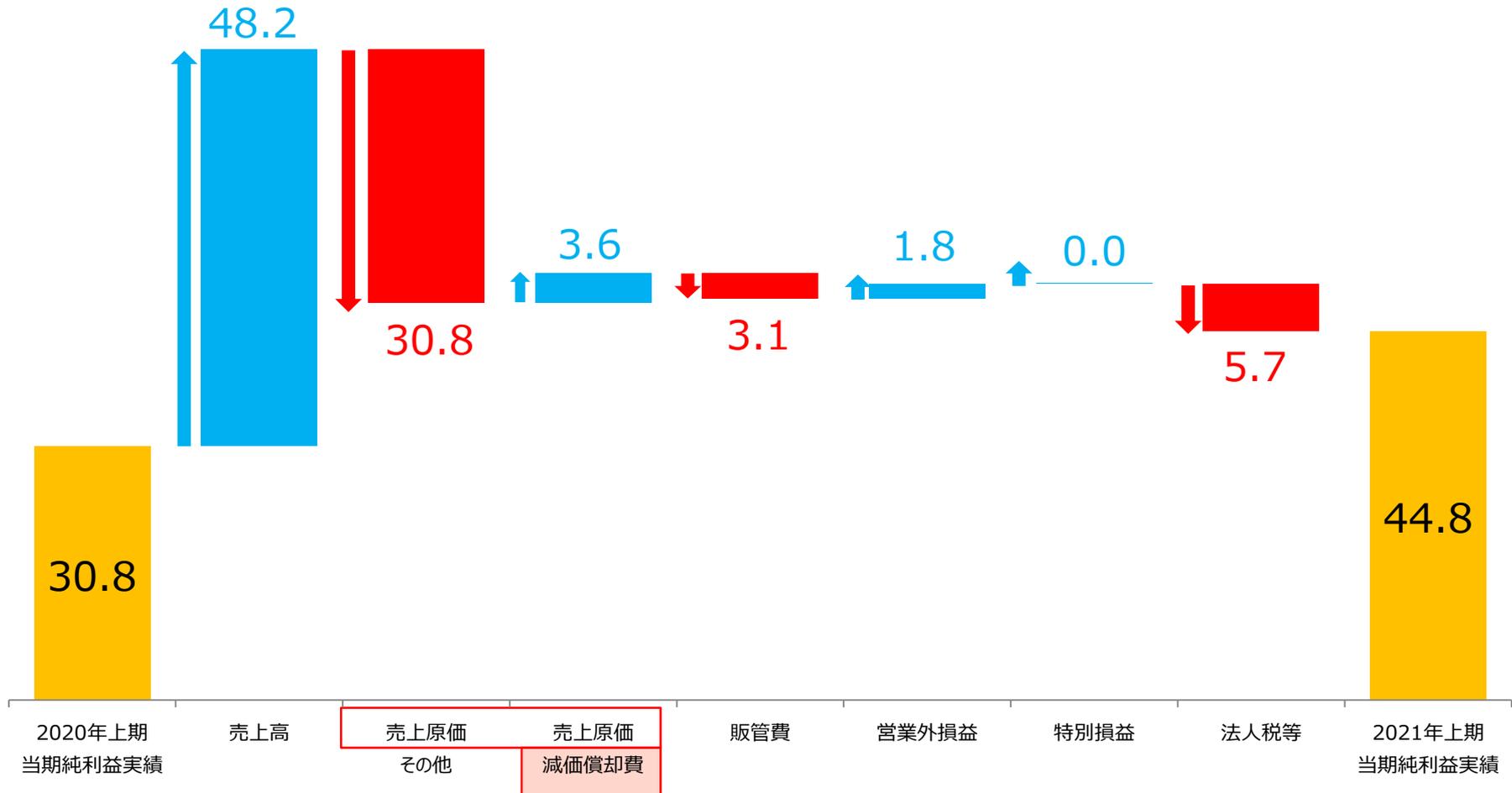


(単位：億円)		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	上期 (4-9月)	通期計画 (4-3月)
		売上高	当期 128.3	123.3	251.6
	前期 102.0	101.3	203.4	422.0	
ライフサイエンス事業	当期 72.5	71.8	144.4	271.0	
	前期 56.7	56.4	113.2	234.1	
電子材料および 機能性化学品事業	当期 55.7	51.4	107.2	215.0	
	前期 45.2	44.9	90.1	187.9	
営業利益	当期 33.7	30.5	64.2	115.0	
	前期 23.4	22.8	46.2	96.3	
ライフサイエンス事業	当期 11.0	9.7	20.7	36.0	
	前期 8.5	8.6	17.1	33.1	
電子材料および 機能性化学品事業	当期 26.1	24.2	50.4	93.5	
	前期 17.8	17.8	35.7	76.4	
(調整額)	当期 △3.4	△3.4	△6.9	△14.5	

2022年3月期第2四半期 当期純利益増減要因



(単位：億円)



セグメント別売上高推移

(億円)

300.0

250.0

200.0

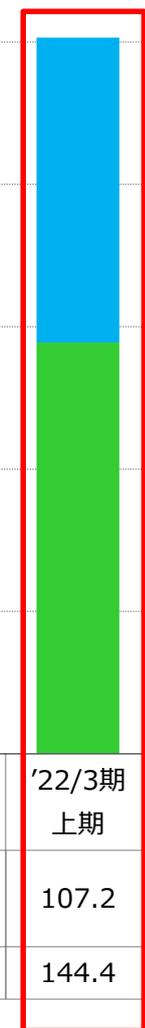
150.0

100.0

50.0

0.0

当期上期



	'17/3期 上期	'17/3期 下期	'18/3期 上期	'18/3期 下期	'19/3期 上期	'19/3期 下期	'20/3期 上期	'20/3期 下期	'21/3期 上期	'21/3期 下期	'22/3期 上期
■ 電子材料および 機能性化学品事業	66.5	75.2	77.8	81.1	84.3	84.3	80.0	91.8	90.1	97.7	107.2
■ ライフサイエンス事業	105.8	114.7	117.9	125.2	128.7	123.3	123.2	117.9	113.2	120.9	144.4

セグメント別営業利益推移

(億円)

80.0

70.0

60.0

50.0

40.0

30.0

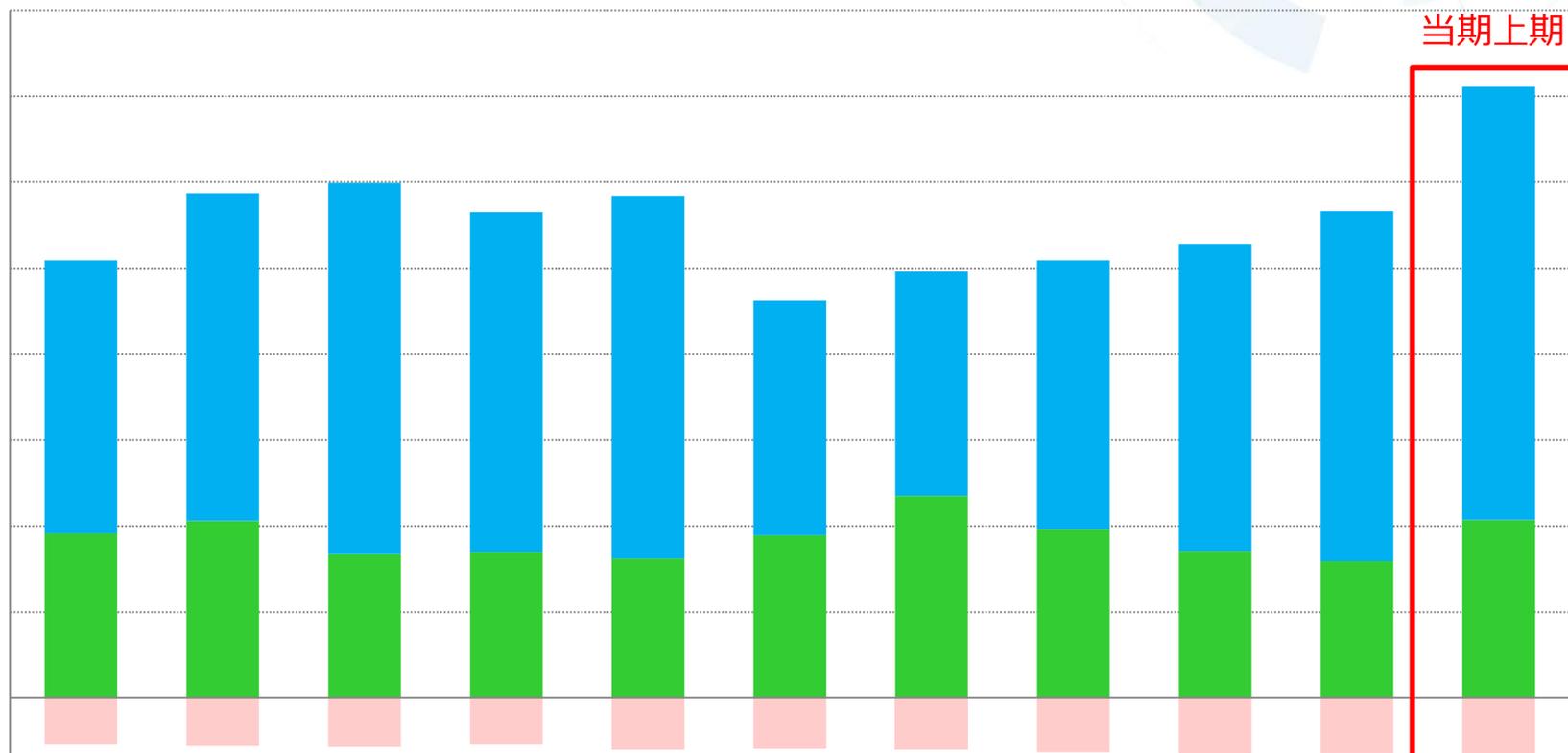
20.0

10.0

0.0

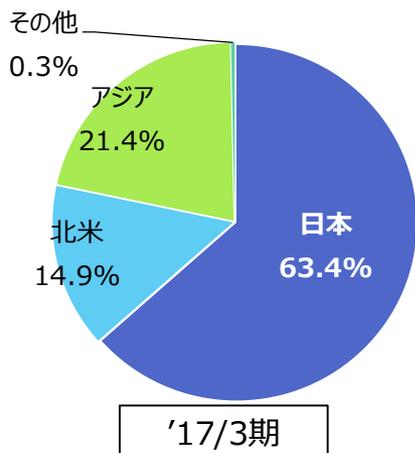
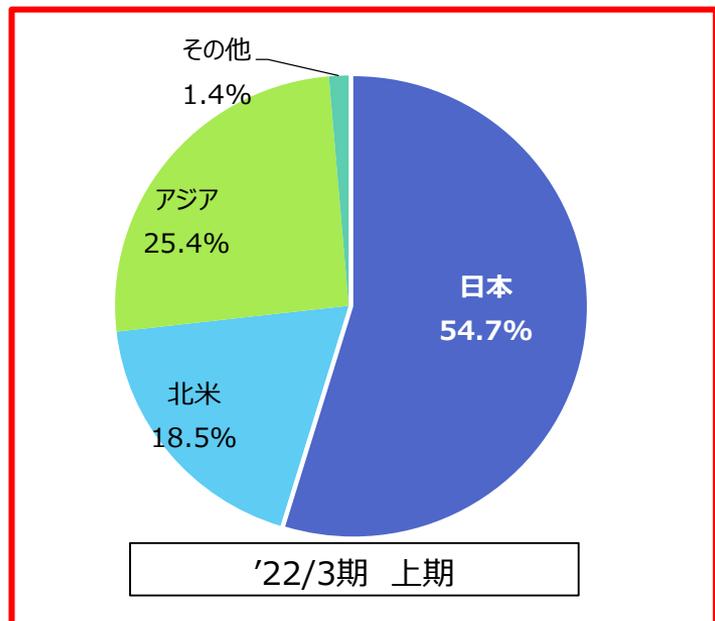
△ 10.0

当期上期

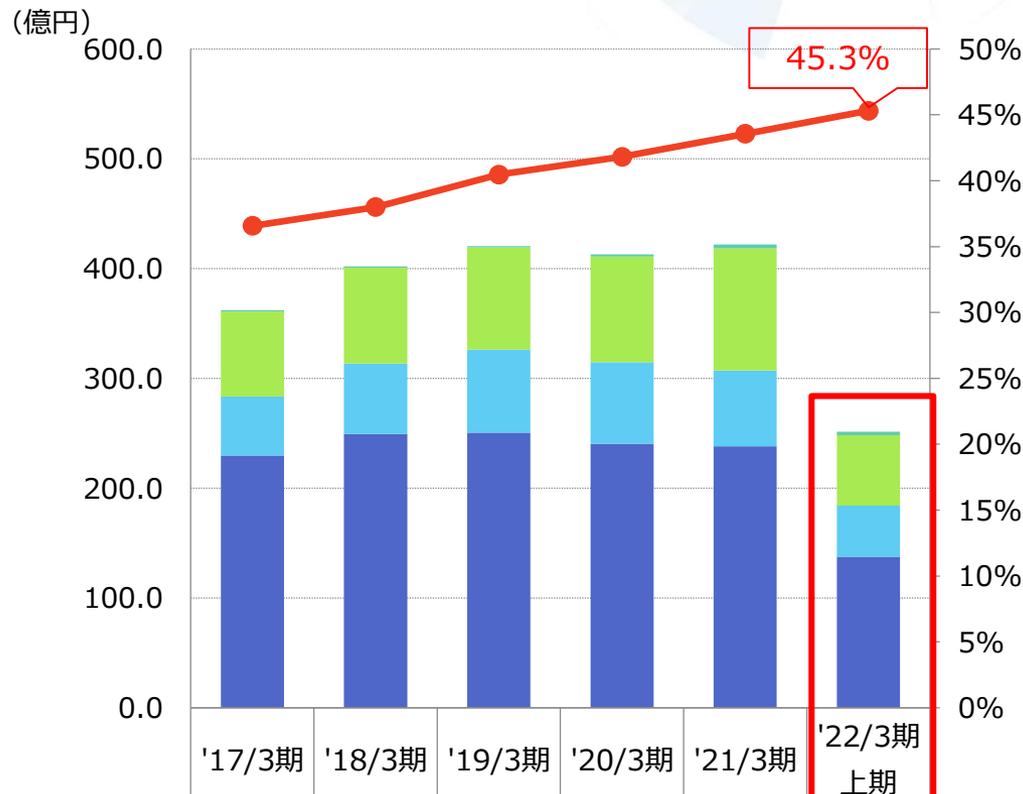


	'17/3期 上期	'17/3期 下期	'18/3期 上期	'18/3期 下期	'19/3期 上期	'19/3期 下期	'20/3期 上期	'20/3期 下期	'21/3期 上期	'21/3期 下期	'22/3期 上期
■ 電子材料および 機能性化学品事業	31.8	38.1	43.2	39.5	42.2	27.3	26.1	31.3	35.7	40.7	50.4
■ ライフサイエンス事業	19.1	20.6	16.7	17.0	16.2	18.9	23.5	19.6	17.1	15.9	20.7
■ (調整額)	△ 5.4	△ 5.6	△ 5.7	△ 5.4	△ 6.0	△ 5.9	△ 6.0	△ 6.3	△ 6.5	△ 6.6	△ 6.9

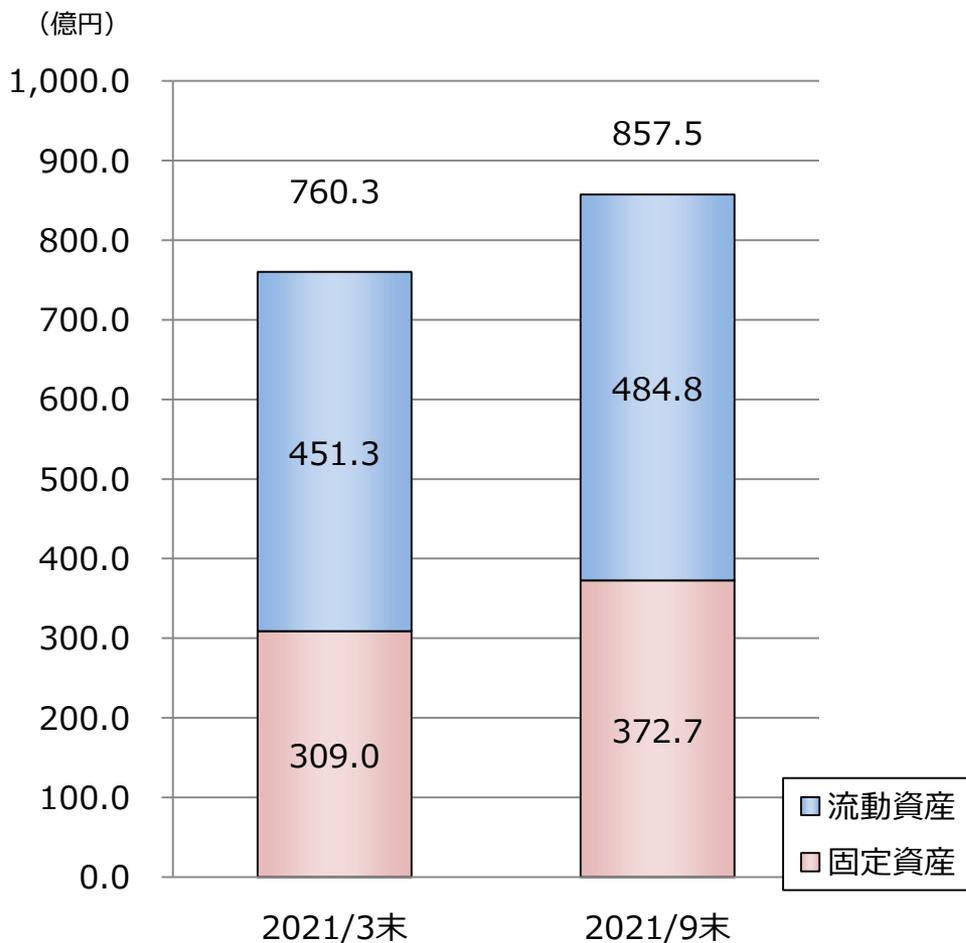
■ 地域別シェア



■ 地域別売上高推移



■ その他	1.2	1.1	1.2	2.1	3.6	3.4
■ アジア	77.4	87.3	93.2	96.1	111.1	64.0
■ 北米	53.8	64.3	75.6	74.4	69.0	46.5
■ 日本	229.7	249.3	250.5	240.3	238.2	137.6
● 海外売上高比率	36.6%	38.0%	40.5%	41.8%	43.6%	45.3%



流動資産 (前期比 + 33.5億円)

- 現預金の増加
- 売掛金の増加

固定資産 (前期比 + 63.6億円)

- 建設仮勘定の増加

負債・純資産の状況



流動負債 (前期比 +70.8億円)

- 設備未払金の増加

固定負債 (前期比 △ 0.1億円)

純資産 (前期比 +26.5億円)

- 利益剰余金の増加
- 自己株式の取得

(単位:億円)

	前期 ('21/3) 上期	当期 ('22/3) 上期
営業活動による キャッシュ・フロー	60.1	45.9
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 15.5	△ 17.7
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 8.2	△ 19.9
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△ 1.4	0.6
現金及び現金同等物 の増加額	34.9	8.8
現金及び現金同等物 の期首残高	160.8	248.3
現金及び現金同等物 の期末残高	195.7	257.2

営業活動によるキャッシュ・フロー

- 税金等調整前当期純利益の計上
- 減価償却費の計上
- 売掛金の増加

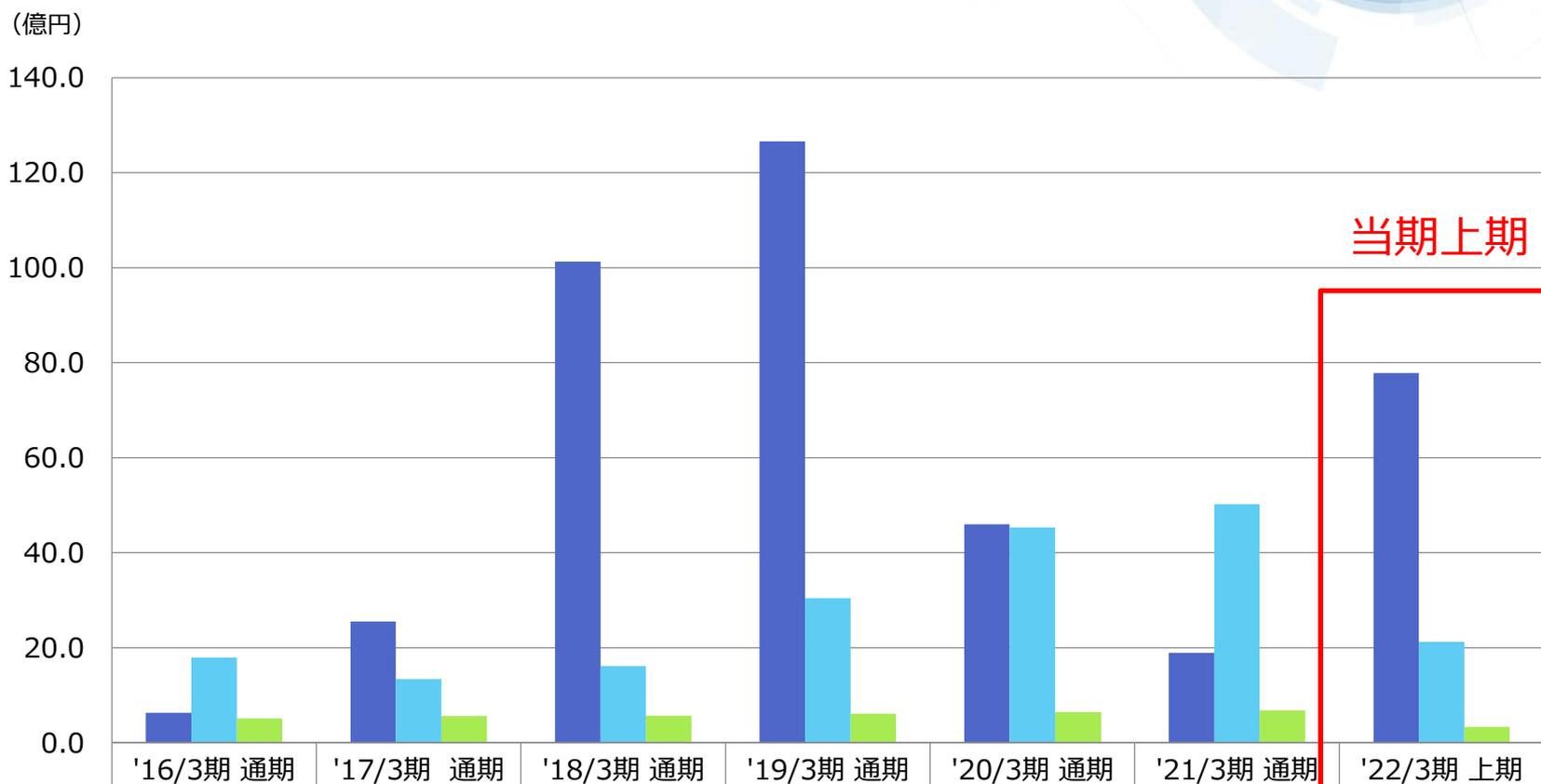
投資活動によるキャッシュ・フロー

- 有形固定資産の取得

財務活動によるキャッシュ・フロー

- 配当金の支払い
- 自己株式の取得

設備投資・減価償却費・研究開発費推移



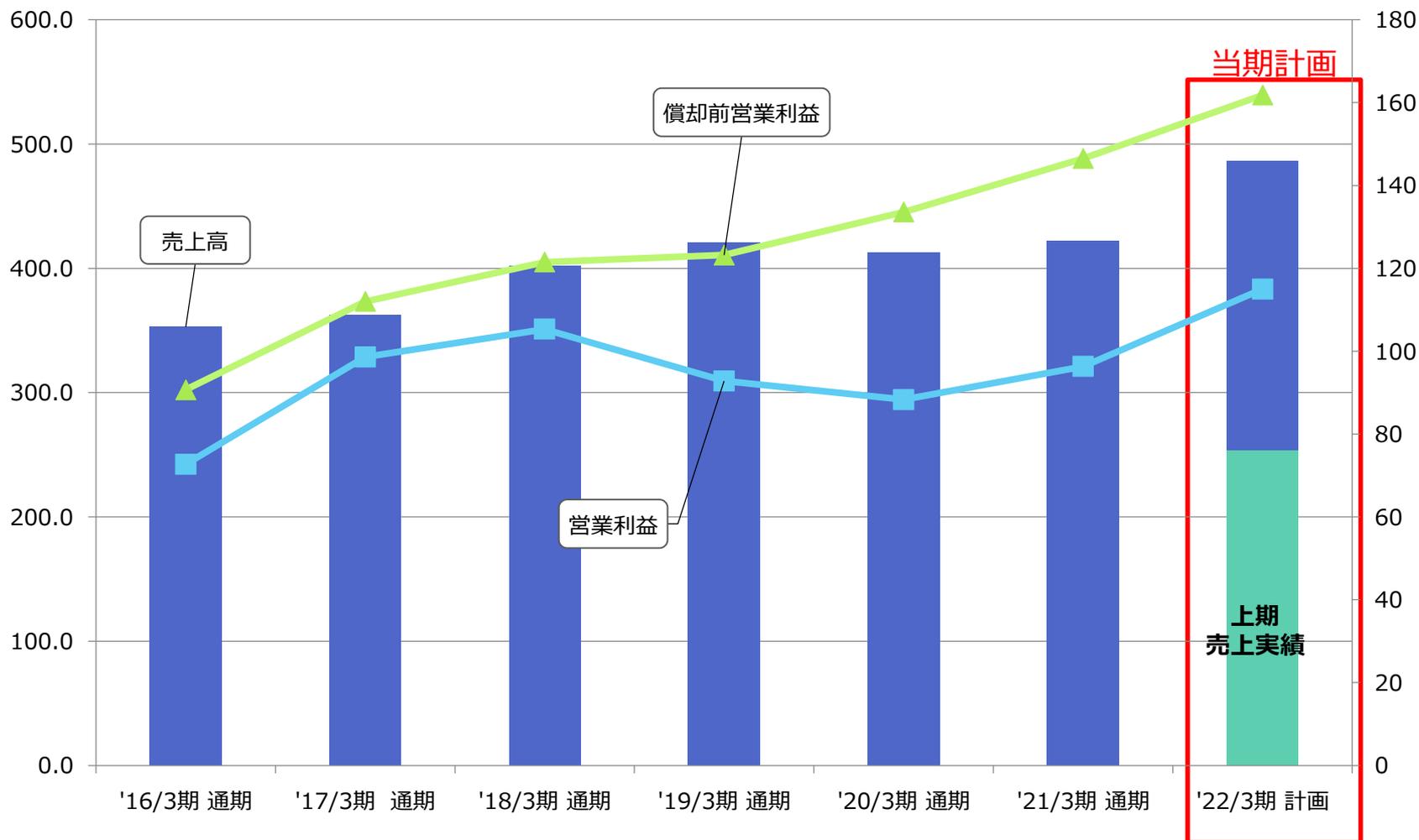
※2020年11月13日に発表した鹿島事業所内における超高純度コロイダルシリカの製造設備及び付帯設備の建設仮勘定の62.1億円を含む

償却前営業利益推移

(売上高/億円)

■ 売上高 ■ 営業利益 ▲ 償却前営業利益

(営業利益/償却前営業利益)
(億円)



Ⅱ. 事業の概況



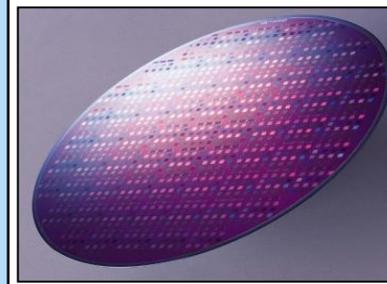
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- ビタミンC類
- イタコン酸
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- その他果実酸
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



ライフサイエンス事業

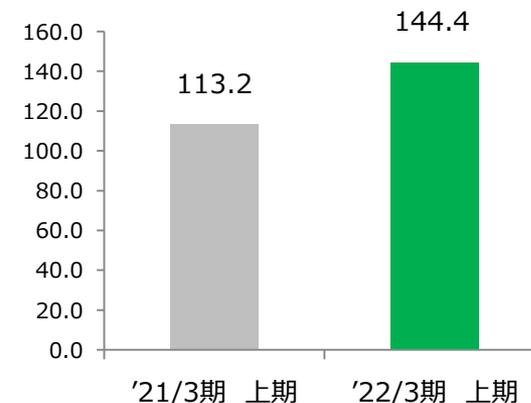
セグメント別売上高・営業利益



ライフサイエンス事業

(単位:億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	144.4	113.2	+31.1	+27.5%
営業利益	20.7	17.1	+3.6	+21.1%

売上高 (億円)



売上高

<増加要因>

- リンゴ酸輸出の増加
- 値上げの実施
- 原材料価格の上昇に伴う販売単価の上昇(価格フォーマミュラ先)
- COVID-19の影響による販売減からの回復
- GNA北米市場での販売増

営業利益

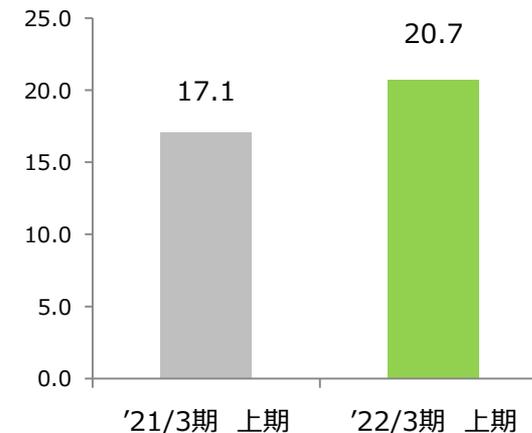
<増加要因>

- 鹿島リンゴ酸設備の減価償却減
- リンゴ酸輸出の増加

<減少要因>

- 原材料価格の上昇
- 円安の進行
- 海上運賃の高騰

営業利益 (億円)



売上高

- リンゴ酸の輸出の増加
 - ↳ 北米、アジア・オセアニア、欧州で新規獲得・販売ルートの開拓
- クエン酸・ビタミンCの値上げ
 - ↳ 価格改定による販売単価の上昇
- 原材料価格の上昇に伴う無水マレイン酸、フマル酸の販売単価の上昇
 - ↳ 原料ベンゼン価格の上昇
 - ↳ 【2020年】 398\$/MT 【2021年】 981\$/MT 《ACP 4-9月平均》
- 工業用途を中心とした市況の回復
- GNA北米市場での販売増および国内シェア10%強アップ

営業利益

- 減価償却費の減少
 - ↳ 鹿島リンゴ酸設備の減価償却費の減少
- 原材料原価の上昇
 - ↳ リンゴ酸/クエン酸原価の上昇
- 円安の進行
 - ↳ 【2020年】 106.9円/ドル、【2021年】 109.8円/ドル 《4-9月平均》

増収
増益

● クエン酸

【クエン酸メーカー状況】

- ・ 各社供給タイトで在庫薄
- ・ 電力使用制限で低稼働
- ・ 冬季オリンピックや暖房需要などによる高値継続の可能性高

原料原価上昇・高値継続

- ・ 2021年 5月 1次値上げ完了
- ・ 2021年10月 2次値上げ完了
- ・ 2022年 1月 3次値上げアナウンス中

● リンゴ酸

- ・ 国内：値上げ検討中
- ・ 海外：契約毎随時値上げ、期初比20%程度

● 無水マレイン酸・フマル酸

- ・ 原材料価格に連動して、随時価格修正

● その他製品

- ・ 随時値上げ実施中

I. 果実酸コンビナート構想の実現

II. 生産体制の再構築及び設備増強

III. 次世代新製品の早期戦列化

IV. FFAトップメーカーへの挑戦

I. 果実酸コンビナート構想の実現 (リンゴ酸【新工場】)

- 本格生産開始
今年度より商業連続生産中
⇒ メインプラントとしての体制確立
⇒ 原料価格高騰を踏まえ、随時価格改定
を行いながら販売拡大
- 国際認証取得完了
FSSC22000 (2021年4月)
- 海外新規顧客への販売継続
大手製薬メーカーの免疫力向上サプリメント用途での
販売拡大
- 国内外切替作業
順次実施中

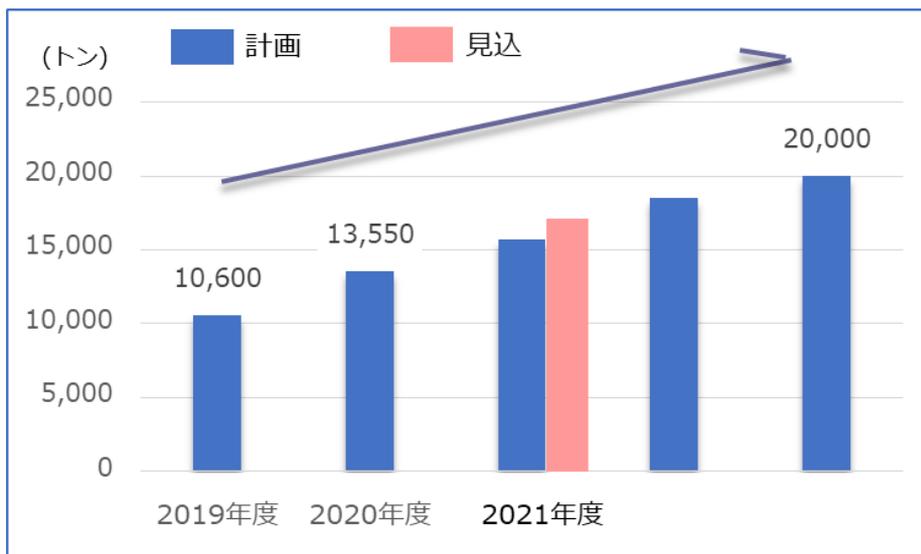
I. 果実酸コンビナート構想の実現

●リンゴ酸

【目標】 20,000MT/Y販売体制の早期確立

【2021年度上期実績】

- ・ 北米、アジア・オセアニア、欧州で新規獲得・販売ルート開拓
- ・ 既存輸出先の販売堅調

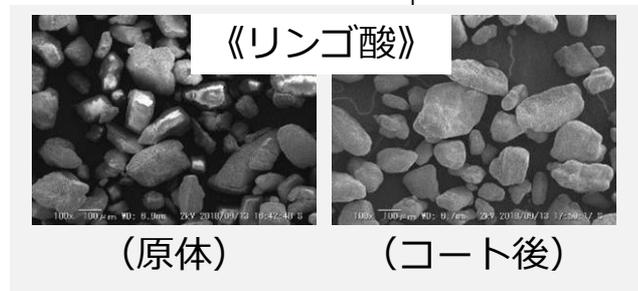


Ⅲ. 次世代新製品の早期戦列化

- 油脂コート有機酸

製造設備完工 (10月)

⇒ 2021年度内上市予定
コートリンゴ酸、コートクエン酸、
コートV.Cを順次上市



- バイオスティミュラント (ストレスフリー製剤)

地域農業関連団体で野菜等に関する評価実施中

⇒ イチゴ向けで高評価
ゴルフ場芝用途以外でも採用実績



IV. FFAトップメーカーへの挑戦

- 食品添加物製剤 (Formulation of Food Additives)
新規製品を開発中《特許出願済み》
⇒ 今年度中の上市を予定
各種食品向け製品を開発中
特定食品に特化した製品を開発中
- 機能的な果実酸 (Functional Fruits Acid)
コート有機酸の開発
⇒ 今年度中に上市
- 食品素材・食品添加物の機能性
(Functionality of Food materials and Food Additives)
外部研究機関との共同研究

電子材料および 機能性化学品事業

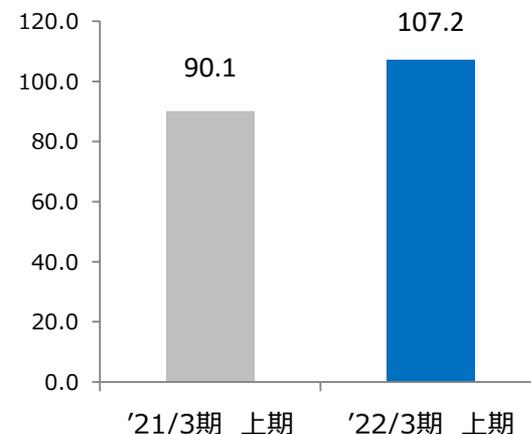
セグメント別売上高・営業利益



電子材料および機能性化学品事業

(単位:億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	107.2	90.1	+17.0	+19.0%
営業利益	50.4	35.7	+14.6	+41.1%

売上高 (億円)



売上高

<増加要因>

- 最先端CMP用途での採用増
- 米中半導体対立による在庫水準の引き上げ
- 為替影響

<減少要因>

- ナノパウダー販売減
- 国際輸送混雑による輸出遅滞

営業利益

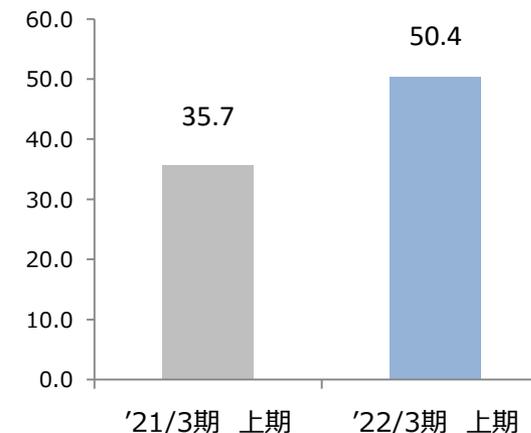
<増加要因>

- 製造数量増加によるコスト減少
- 経費の縮減
- 減価償却費減少
- 為替影響

<減少要因>

- 輸出入運搬費上昇

営業利益 (億円)



売上高

- 最先端CMP用途での採用増
 - ↳ ロジックの微細化に伴う増加
 - ↳ メモリの高層化に伴う増加
- 通信量増加に伴うデータセンター増設
 - ↳ パソコンなど電子機器需要増加
- 国際輸送混雑による輸出遅滞
 - ↳ 在庫水準の引き上げと、**輸送日数の長期化**
- リモートワークに伴うオフィスサプライ需要減
 - ↳ **オフィスでの印刷量減少に伴うトナー需要減少**

営業利益

- 製造経費のコストダウン
 - ↳ 生産数量増加によるスケールメリットの向上
- 出張・訪問自粛に伴う経費減
 - ↳ 販売経費のコストダウン
- 減価償却費減
 - ↳ ピークアウト後、減少に転換
- 物流費増
 - ↳ **輸出物流費の若干の増加**

増収
増益

<2021年上期>

✓ 半導体需要好調

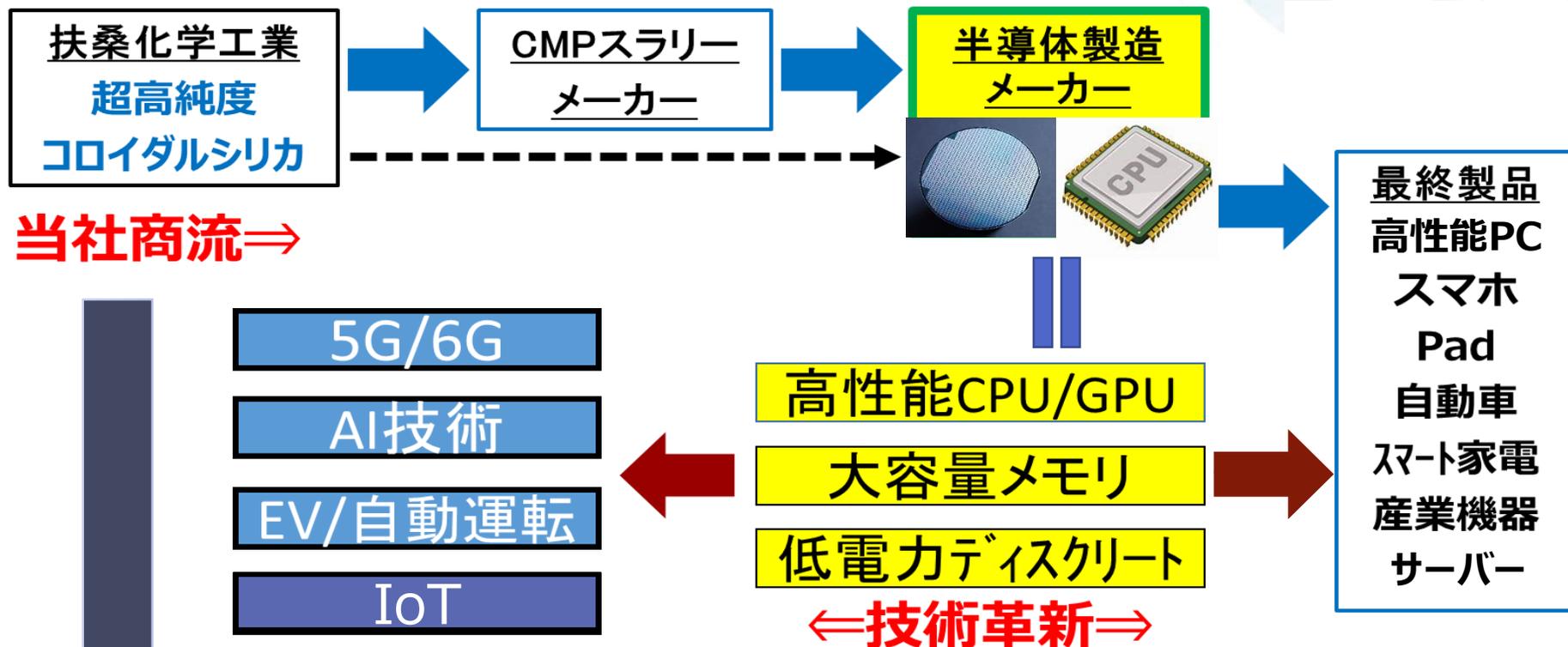
- デジタル社会への変革に向けた半導体需要の増加。
- AI・5Gの需要に対する半導体の配線微細化。
- データセンター整備促進によるメモリ高集積化と需要増加。
 - ・ シリコンウエハ：2021年前半(1~6月)、対前年同期比で+13% (参照：Semi)
 - ・ 半導体ファウンドリーであるTSMCは、2021年第3四半期(7~9月) 対前年同期比で売上+16.3%の成長(参照：TSMC Web)
 - ・ 当社製品は、ロジックでの使用割合が多いと推測され、数量ベースで対前年同期比+10.2%

<2021年下期～見通し>

✓ 半導体需要の好調は当面継続

- デジタル社会への変革に伴い、半導体需要は底堅い。
- AI・5Gに代表される高性能ロジックを必要とする用途拡大。
- 最先端半導体の生産での、配線微細化・高平坦化が進み需要拡大。
 - CMPや、その材料に対する顧客品質要求も益々高度化。
- 国際物流の混雑・遅滞が継続し、安定物流への対応がより求められる。
- 生活様式の変化によるオフィスサプライ需要の減少と、その傾向の固定化。
- 原材料価格の上昇懸念。

半導体業界における当社の役割

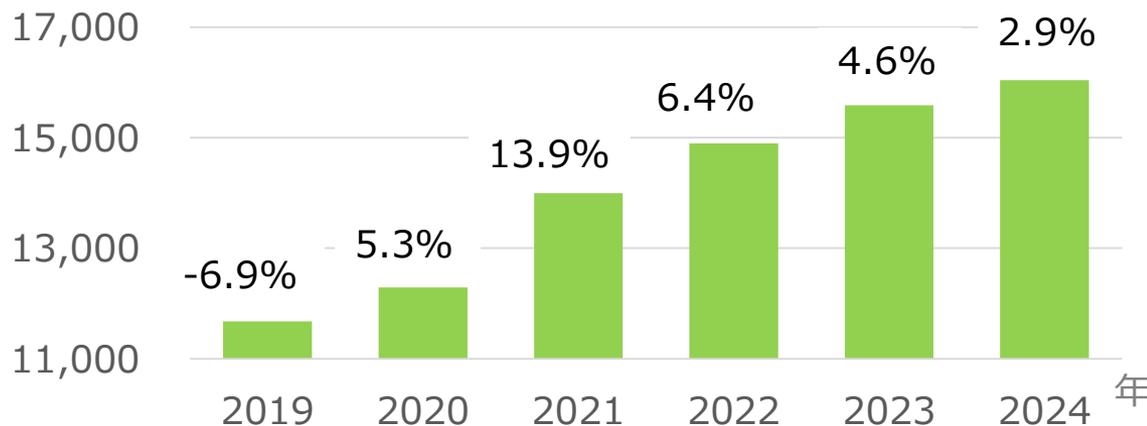


時代のニーズにマッチ

- ◆シリコンウエハの高純度研磨
- ◆最先端チップの微細化
- ◆次世代新素材(Co,Ru,Low-K...)向け新規開発
- ◆顧客毎のカスタマイズ/対応力
- ◆安定/大量供給が可能な製造設備

出荷面積
(MSI)

ウエハ出荷数量予測



◆ ウエハ出荷数量予測 ◆

2020年以降、強い需要に
支えられ、増加。
(数字は年成長率)

【出典 Semi】

1.80
1.60
1.40
1.20
1.00

CAGR約10%



◆ CMPスラリー数量予測 ◆

半導体の微細化・高層化に
支えられ、2020年以降、増加

自社推計データ

I. 半導体研磨：

重点顧客との取組み深化、生産効率最適化、新規砥粒開発推進

II. 生産・研究・品質保証体制堅実化

顧客要求要望事項への迅速な対応、分析精度・効率向上、コスト削減

III. 機能材料：

コア技術をベースとした新規市場開拓

IV. 環境変化への的確な対応：

国際輸送の遅滞及びコストアップ

I. 半導体研磨：

重点顧客との取組み深化、生産効率最適化、新規砥粒開発推進

- ◆ 重点顧客との取組み深化
 - ・ 重点顧客とのリモート会議定着による新規砥粒開発推進、課題解決の迅速化及び供給体制の早期構築が可能に
- ◆ 生産効率最適化
 - ・ 顧客の長期フォーキャストに基づく供給体制の構築
- ◆ 新規砥粒開発推進
 - ・ 最先端世代向けに新規砥粒の採用
 - ・ 先端世代における品質課題解決による新規砥粒への技術フィードバック

Ⅱ. 生産・研究・品質保証体制堅実化： 顧客要求要望事項への迅速な対応、分析精度・効率向上、コスト削減

- ◆ 顧客需要予測に因應べく設備増強
 - ・京都事業所 第二工場に増設を決定（2021年7月）
 - ・鹿島事業所 起工式を実施（2021年8月）

- ◆ 顧客ニーズに対応した新規コロイダルシリカを開発/拡充
 - ・高濃度グレード拡充
 - ・表面修飾グレード拡充
 - ・高研磨タイプ、新規表面修飾タイプの開発

- ◆ 新規分析装置導入による精度向上、効率向上
- ◆ 製造プロセス安定化/最適化による品質安定化、コスト削減

Ⅲ. 機能材料（新規用途向け）： コア技術をベースとした新規市場開拓

- ◆ ナノパウダーの用途先拡大
- ◆ コア技術をベースとした新規市場開拓
- ◆ 新規用途拡大を企図した組織再編/最適化

IV. 環境変化への的確な対応： 国際輸送の遅滞及びコストアップ

- ◆ 輸出入への影響
 - ・コンテナ船の運賃高騰
 - ・港の混雑による諸経費アップ
 - ・海上輸送のスペース不足
 - ・船積確保から納入までの輸送リードタイムの長期化



物流費上昇分の価格一部転嫁、原材料の安定調達、
複数航路の確保

Ⅲ. 2022年3月期 業績予想

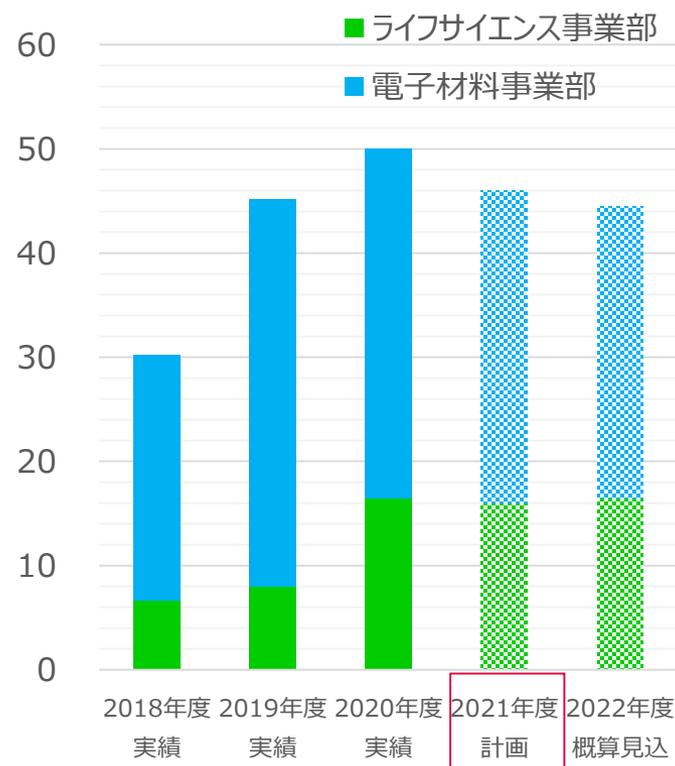
2020年度をピークに減少

- ◆ 電子材料事業部門 : 2019年度が最大。
- ◆ ライフサイエンス事業部門 : 2019年度第4Qより増加。

(単位:百万円)

セグメント	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	2022年度
	上期 実績	上期 実績	実績	計画	概算見込
ライフサイエンス 事業部	824	704	1,645	1,600	1,650
電子材料 事業部	1,651	1,403	3,353	3,000	2,800
共通	12	16	28	80	150
連結合計	2,488	2,124	5,027	4,680	4,600

(億円)



* 工事完了時期、追加費用、計画変更、新規投資等に伴い、概算金額変動の可能性有り。

- ◆ 大型設備投資後の生産能力アップ。稼働率上昇中
- ◆ 償却前利益額（EBITDA）の最高益更新を継続
- ◆ 原材料費高騰に伴う価格改定

現状

- ・ 為替レート ¥ 114円前後
- ・ 原材料・電力の高騰
- ・ コロナウイルスの影響は限定的
- ・ 石油価格は高騰後、高値圏

計画

- ・ 年間為替レート ¥ 107円
- ・ 原材料の上昇
- ・ コロナウイルスの影響軽減
- ・ 石油価格の上昇

	売上高		営業利益		当期純利益		償却前営業利益	
	金額 (百万円)	前年同期比 (%)	金額 (百万円)	前年同期比 (%)	金額 (百万円)	前年同期比 (%)	金額 (百万円)	前年同期比 (%)
2022.3 計画	48,600	+15.1%	11,500	+19.4%	7,900	+16.0%	16,180	+10.4%
第2四半期 (実績)	25,167	+23.7%	6,425	+38.8%	4,488	+45.4%	8,550	+20.1%
2021.3 実績	42,209	+2.2%	9,632	+9.1%	6,808	△2.9%	14,659	+9.7%
第2四半期 (実績)	20,340	+0.0%	4,629	+6.1%	3,086	+2.4%	7,117	+10.6%

2022年3月期 通期業績予想



(単位：億円)

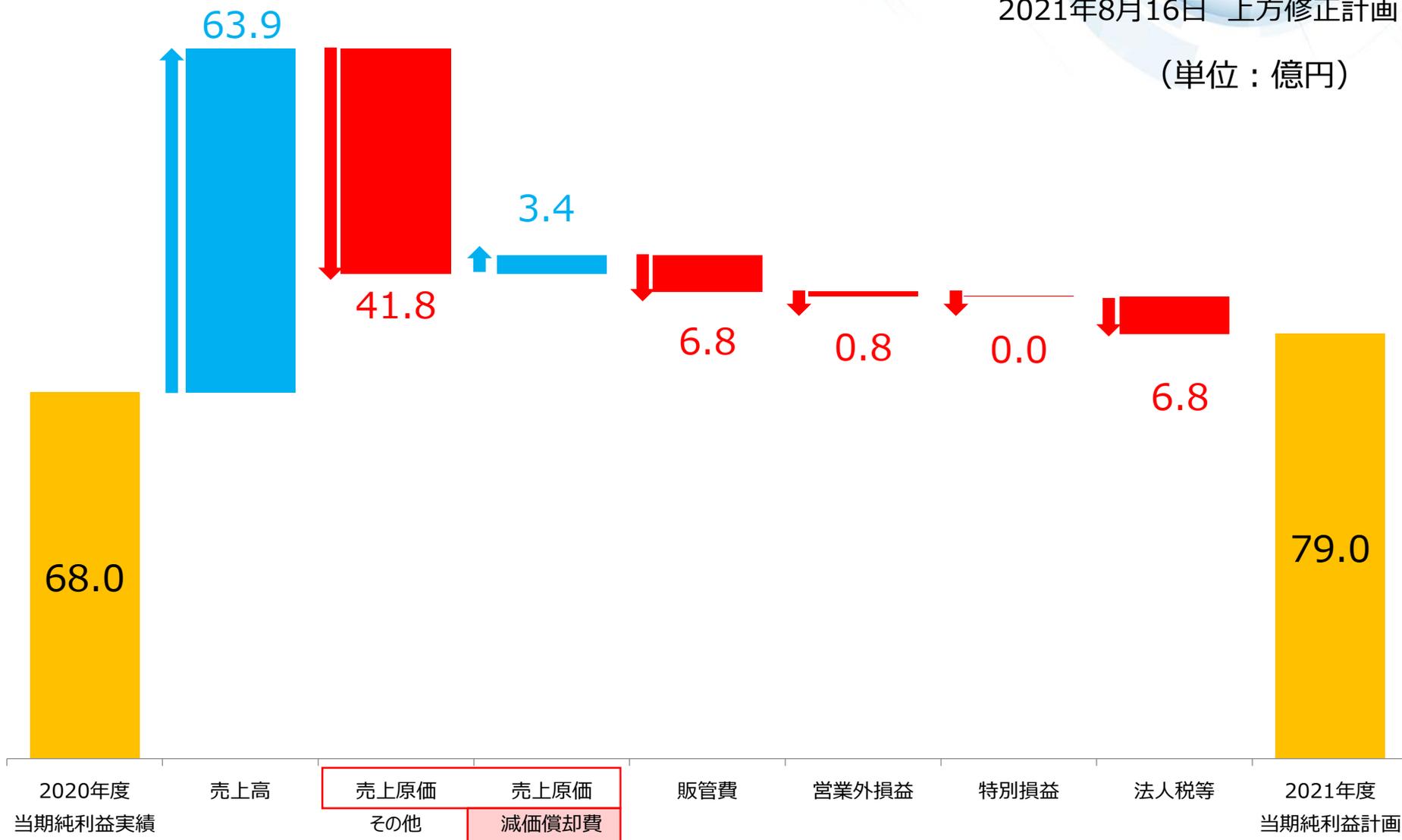
	'21/3期 上期 (実績)	'21/3期 通期 (実績)	'22/3期 上期 (実績)	'22/3期 通期 (計画)
売上高	203.4	422.0	251.6	486.0
ライフサイエンス事業	113.2	234.1	144.4	271.0
電子材料および 機能性化学品事業	90.1	187.9	107.2	215.0
営業利益	46.2	96.3	64.2	115.0
ライフサイエンス事業	17.1	33.1	20.7	36.0
電子材料および 機能性化学品事業	35.7	76.4	50.4	93.5
(調整額)	△6.5	△13.2	△6.9	△14.5
経常利益	45.0	97.4	64.8	115.3
当期純利益	30.8	68.0	44.8	79.0
償却前営業利益	71.1	146.5	85.5	161.8
1株当たり当期純利益	86.9円	191.7円	126.5円	223.4円

2022年3月期計画 当期純利益増減要因



2021年8月16日 上方修正計画

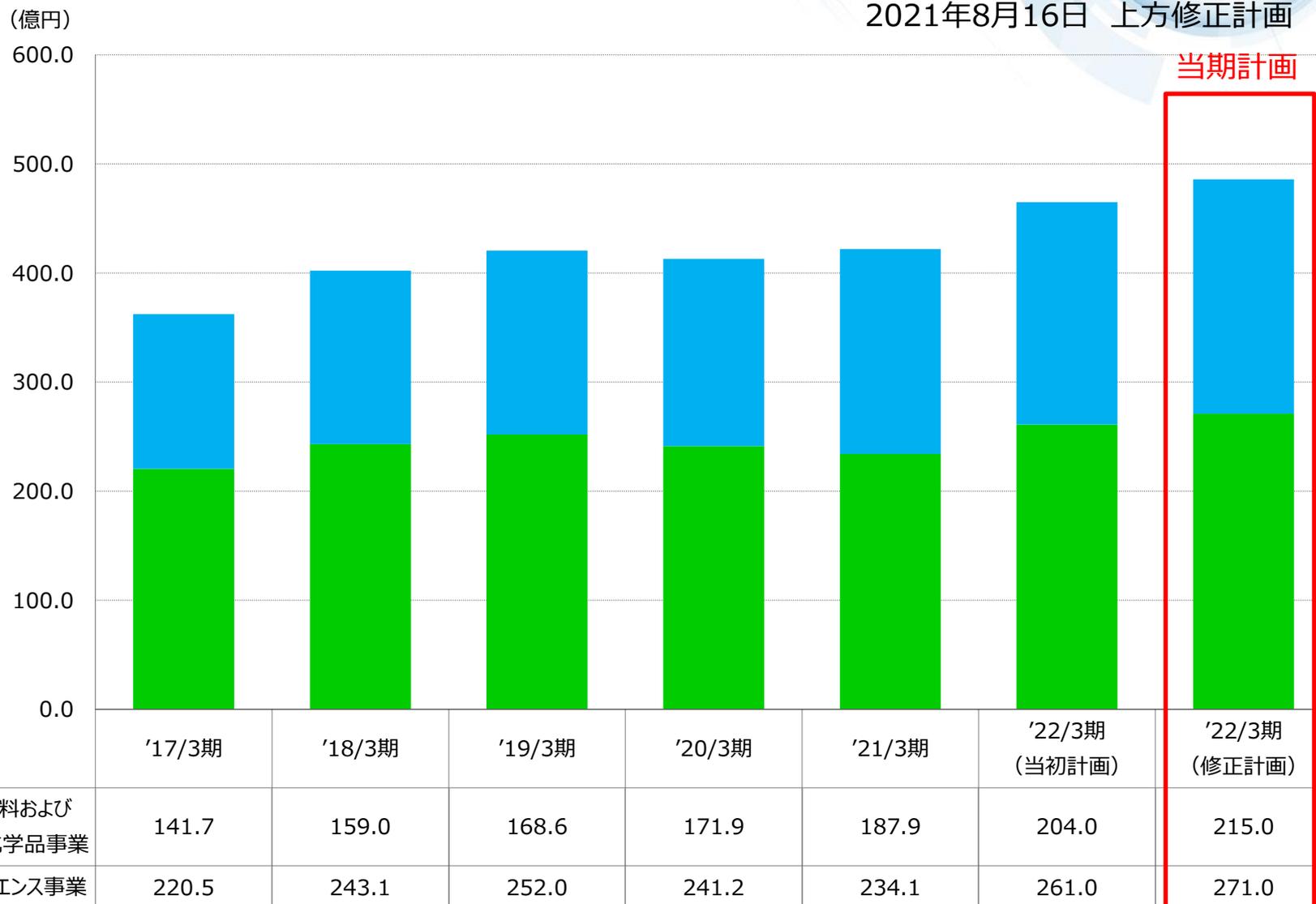
(単位：億円)



セグメント別売上高推移

2021年8月16日 上方修正計画

当期計画



セグメント別営業利益推移

2021年8月16日 上方修正計画

当期計画

(億円)
140.0

120.0

100.0

80.0

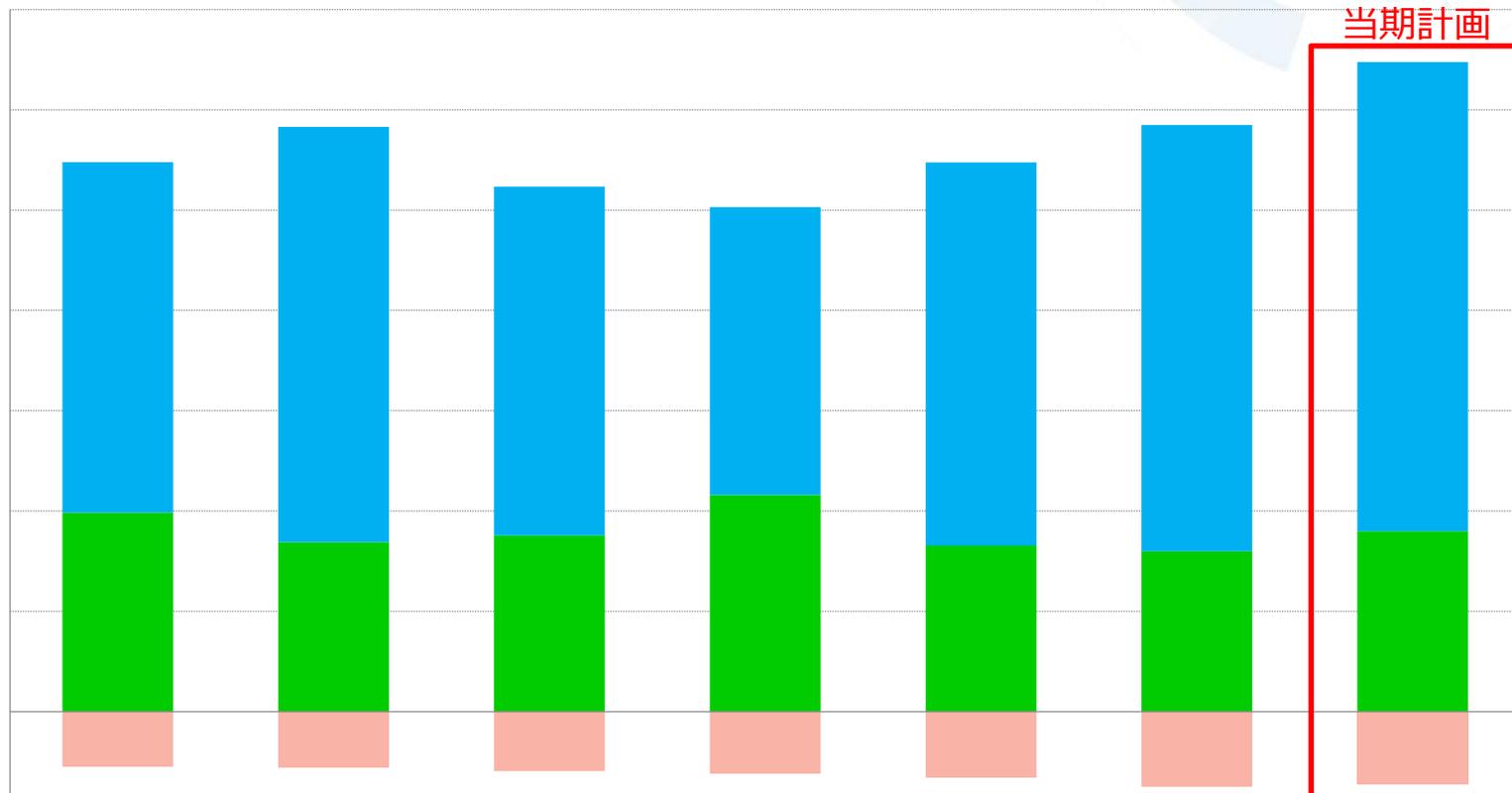
60.0

40.0

20.0

0.0

△ 20.0

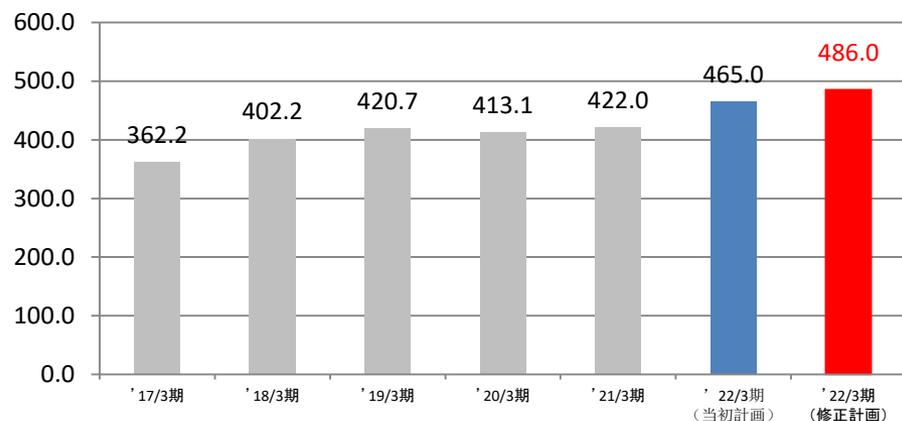


	'17/3期	'18/3期	'19/3期	'20/3期	'21/3期	'22/3期 (当初計画)	'22/3期 (修正計画)
■ 電子材料および 機能性化学品事業	69.9	82.8	69.6	57.4	76.4	85.0	93.5
■ ライフサイエンス事業	39.7	33.8	35.1	43.2	33.1	32.0	36.0
■ (調整額)	△ 11.0	△ 11.2	△ 11.9	△ 12.4	△ 13.2	△ 15.0	△ 14.5

2021年8月16日 上方修正計画

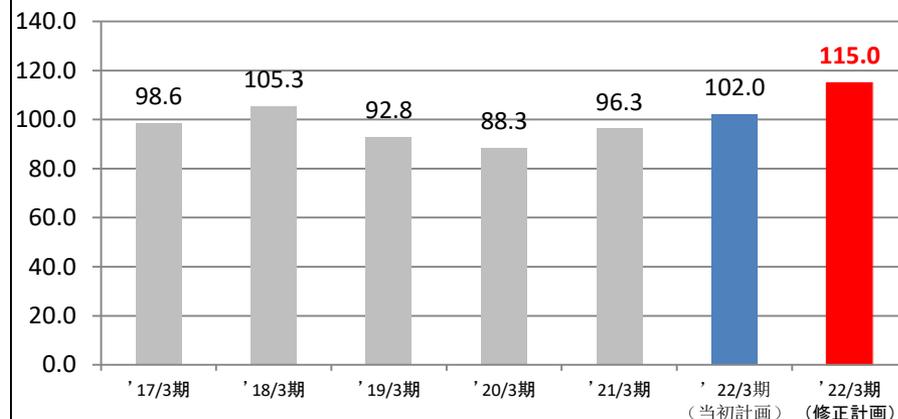
(億円)

売上高



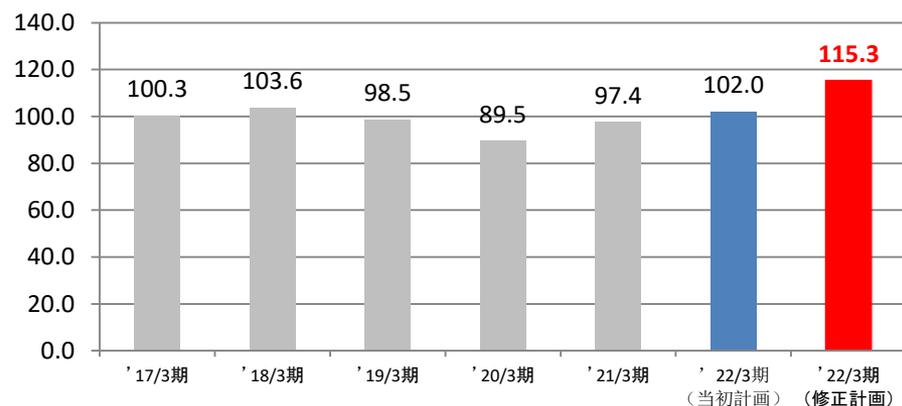
(億円)

営業利益



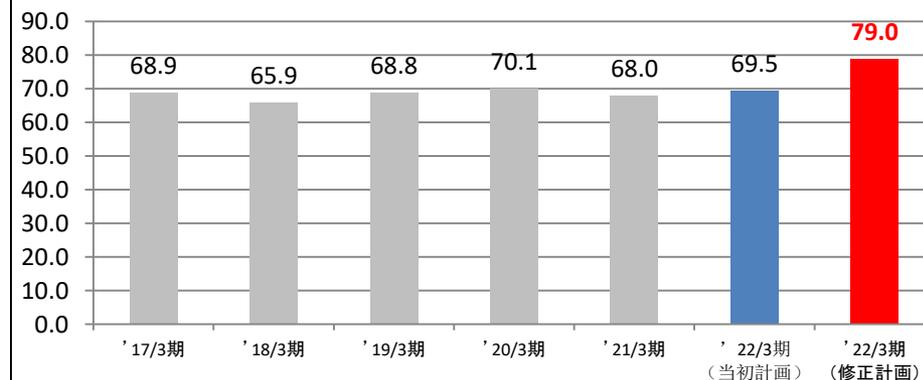
(億円)

経常利益



(億円)

当期純利益

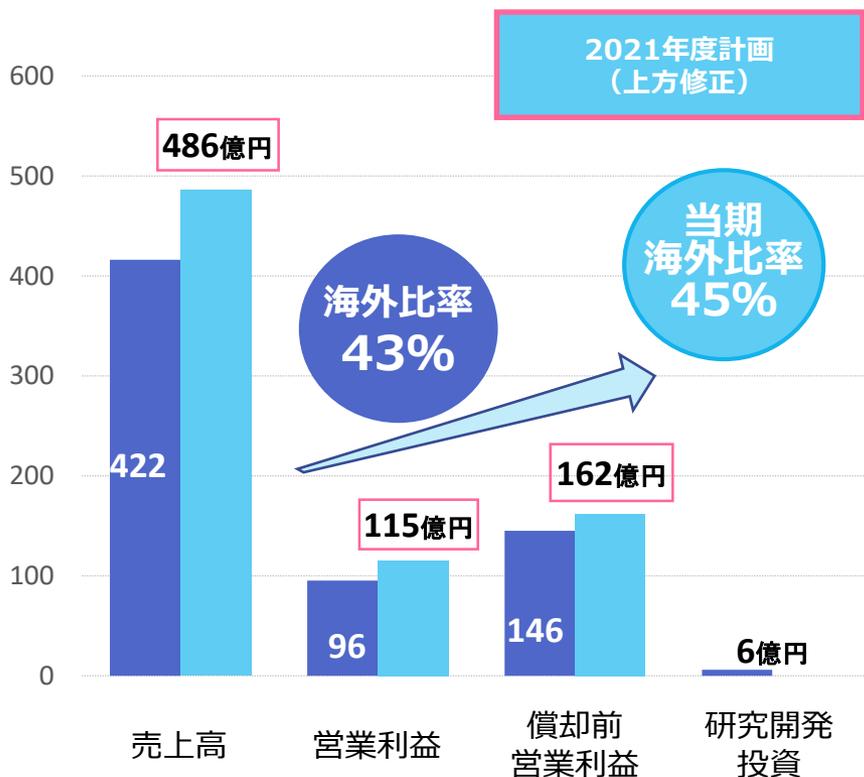


中期経営目標（5ヶ年業績目標）

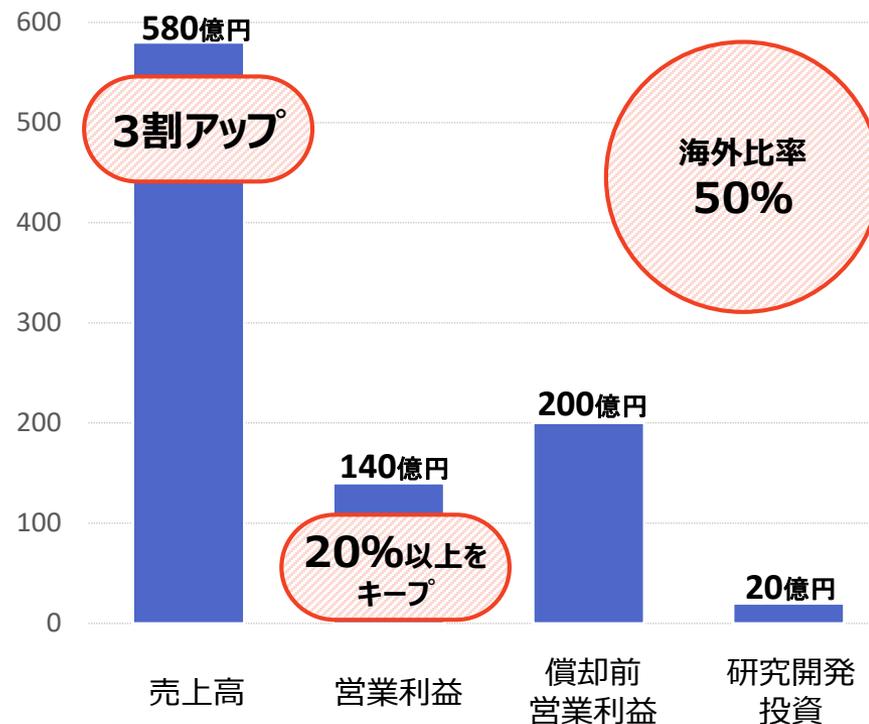


- ◆ 売上高 3割アップを目指します。
- ◆ 営業利益率 20%以上を確保します。
- ◆ 海外売上高比率 50%を目指します。

2020年度（2021年3月期実績）



2021年度～2025年度※最終年度

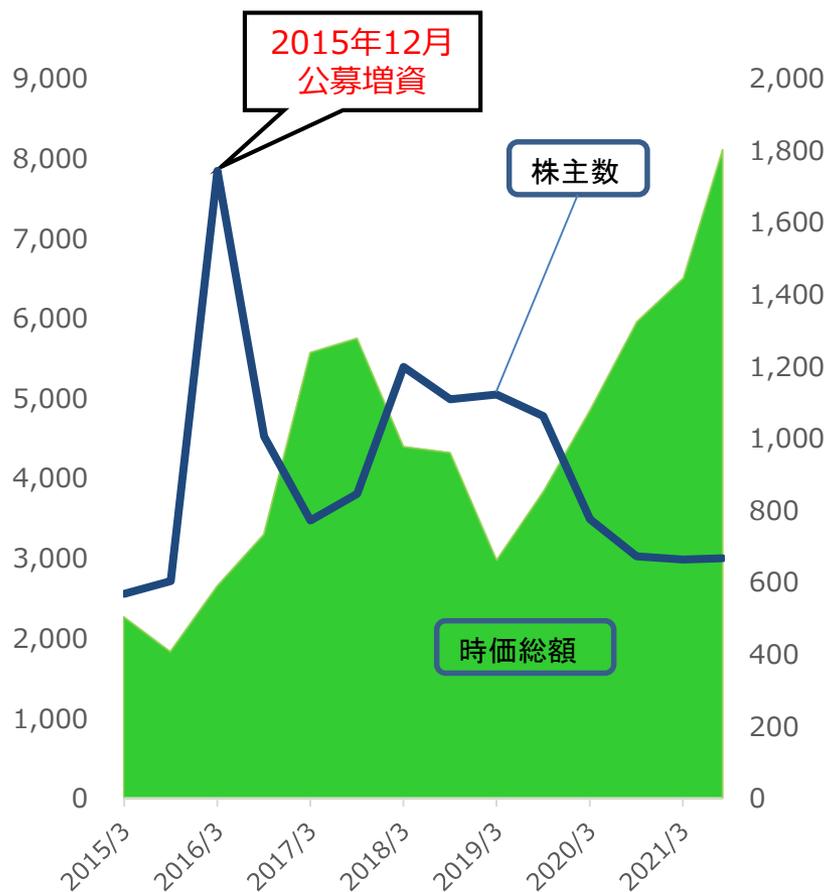


I. 株価推移

【時価総額・株主数】

(人数：人)

(時価総額：億円)



【2020年10月～2021年9月】

(日経平均：円)

(扶桑化学：円)

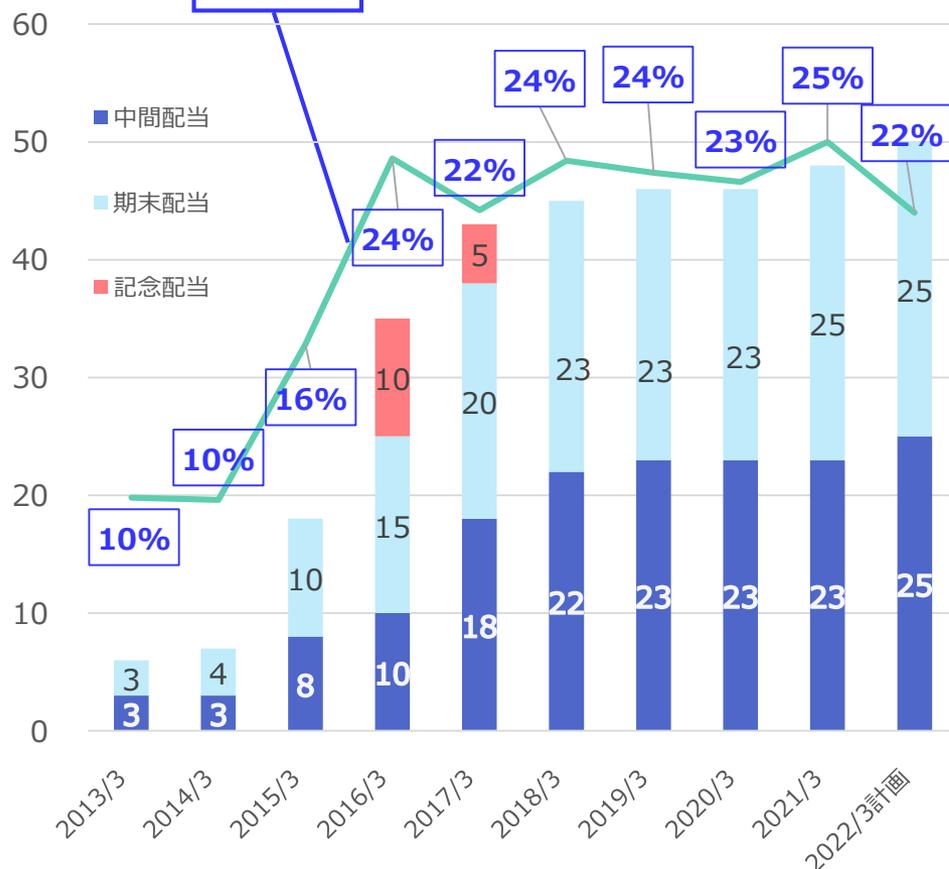


Ⅱ. 配当金

(配当金/円)

配当性向

1株当たり年間配当推移*1



連続増配予定

- 2022年3月期：増配予想
 - ・普通配当金50円
(中間配当25円、期末配当25円)
- 2021年3月期：増配
 - ・普通配当金48円
(中間配当23円、期末配当25円)
- 自己株式の取得
 - ・260,000株買付実施
(自己株式立会外買付取引(ToSTNet-3)による買付)

配当性向、配当利回りを考慮しつつ
安定的かつ継続的な配当実施

*1：2014年10月1日付株式分割（1:5）に伴い、調整

【健康経営】

FUSO健康宣言

～良い製品は体と心の健康から生まれる～

FUSOは、すべての社員がワークライフバランスの取れた生活で、生き生きと仕事に取り組み、世界の
人々に貢献する製品を提供できるよう、健康的な職場作りを推進することを宣言します。

扶桑化学工業株式会社
代表取締役会長 藤岡実佐子

【オフィスカジュアル】



- ◆ 2020年5月 女性社員の制服着用自由化を実施
- ◆ 2021年10月 男女とも通年『オフィスカジュアル』

* ダイバーシティを促進し、より健康的で働きやすい職場環境整備

【企業版ふるさと納税】



子供たちの子供たちの子供たちへ、
快適な暮らしや美しい地球を残すために、
必要とされる企業であり続けます。



- ◆ 「福知山市まち・ひと・しごと創生推進計画」に対し、寄付を実施
- ◆ 高機能救急自動車及び最新資機材の購入の一部として充当

【企業責任・SDG s】

ライフサイエンス事業部

食品素材および食品添加物製剤の開発
で食品廃棄ロスを削減する



- ・排水規制を順守し環境負荷を削減
- ・産業廃棄物の減量化を推進

電子材料事業部

超高純度コロイダルシリカの開発・
生産で、デバイスの高精細化・高性能
化に貢献し、社会インフラに寄与する



- ・埋立ゴミを削減し山地の保全に寄与
- ・サプライチェーン全体の省エネとCO2削減

IV. Q & A

Q1. ライフサイエンス事業の業績改善と今後の見通し

Q2. 超高純度コロイダルシリカの製造設備増強

Q3. 原材料・燃料価格上昇の影響

Q4. 非財務目標の定量化・可視化とコミットメント

Q1. ライフサイエンス事業の業績改善と今後の見通し

鹿島事業所のリンゴ酸設備はすでに8~9割ほどの稼働となっております。リンゴ酸の需要が旺盛なため、大阪工場のリンゴ酸設備も稼働を下げず生産を継続しております。

業績ですが、売上高・利益ともに前年対比で20%以上の大幅増になりました。主な要因は、コロナ禍で落ち込んでいた海外での販売が大きく回復していることや原材料費の高騰を受けて販売価格の改定、値上げが進んできていることなどによります。

ただ、原材料価格の急激な上昇と想定以上の円安が今後も業績に続くようであれば業績に大きな影響を与える事になり注視していきます。必要に応じて販売価格の改訂をお願いしていきます。

Q2. 超高純度コロイダルシリカの製造設備増強

前回の説明会でも概ね8割ほどの稼働率で生産していますとお答えしています。半年を過ぎましたが、この間は過去最高の出荷量となり、想定以上に需要が旺盛でした。現在の稼働率も8割を超えております。2023年には鹿島事業所、2024年には京都事業所に新規製造設備が完成致します。これらの投資は需要の拡大・製品の認証期間なども考慮の上での計画であり、高いシェアを頂いている弊社の供給責任を果たすためのものです。

今後につきましても半導体市場は益々の成長が見込まれておりますので、引き続き、顧客ニーズを的確に把握した上で、必要に応じてさらなる設備投資を実施していく所存です。

なお、京都事業所の新設備に関しては、国内半導体関連の企業を支援する経済産業省の補助金対象事業と認められ約3割の補助を受けることとなっております。

Q3. 原材料・燃料価格上昇の影響

ライフサイエンス事業においては、原料となるベンゼンやトウモロコシの価格が、当初計画で想定していた以上に高騰しています。また、電子材料事業においても、主原料の金属ケイ素の価格が夏場以降大きく上昇しております。

中国での電力不足や脱炭素社会実現に向けた計画の影響、コロナ禍からの経済の立ち直りなどが引き金となっていますが、ある程度中長期的に価格が高止まりする可能性が高いと考えております。

コスト削減や効率化に取り組んでいますが、想定以上の値上がりのため自社努力だけでは吸収しきれず、お客様にも応分の負担をお願いしております。

業績への影響ですが、ライフサイエンス事業、電子材料事業ともに販売価格の引き上げにより売上は増加はしますが、原価も上がりますので利益への影響はそう大きくはないと考えております

Q4. 非財務目標の定量化・可視化とコミットメント

企業を取り巻く環境が大きく変化している中で、当社グループは、気候変動を始めとした社会的課題を戦略的に組み込んだ経営が重要であると認識しております。

社会課題の解決と事業の成長を両立した取組みを強化するために、企画開発室を主管部署としたサステナビリティ委員会の設置を10月に決定し、開示に向けて社内の情報の整理を進めております。準備が整い次第、ホームページで開示させていただきます。

また来年4月の東証の新市場区分見直しで、「プライム市場」への上場を申請をいたしており、プライム市場銘柄として相応しい、社内体制の整備に努めてまいります。

本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。